



社会福祉法人  
**放泉会**

# 令和4年度 事業報告

## 1. 概要

令和4年度、新型コロナウイルス第7波、8波に翻弄された一年であった。

これまで利用者感染ゼロで推移してきたサンシルバーさわらびにて、2月にクラスター感染（10名感染 職員含む）が発生し、発症確認から終息まで18日間を要した。その間、嘱託医を中心に県央保健所と連携し対応を行った。

サンチャイルド長久さわらび園では数度にわたり、園児、保護者、職員（園児72名、職員19名、クラスター3回）の感染が確認され24回、延べ71日間閉園となった。ゆうゆう学童クラブでは、4月から8月の間で、部分的に休所となった。7月には、4日間にわたり、小学校の臨時休校に伴う、休所を余儀なくされた。

また県市内において、感染者数の増加の中、職員の同居家族の感染が確認された。濃厚接触者として、自宅待機となり勤務調整に困難を極めた。

入所系の施設では、引き続き面会制限の為、対応策としてZOOM面会の実施や、面会が困難なご家族に対して、動画や画像の配信を行い、利用者の様子を伝えた。

新型コロナ感染予防も影響し、ゆうイングさわらびの短期入所と通所介護においては、利用者数が減少となった。また、経営面においては、ロシアのウクライナ侵攻の余波が多くの影響を受け、光熱費、諸物品の高騰を受けた。大幅に業務等の見直しを行い効率化、節電、節約と節減に努めた。

開設23年を迎えた、ゆうイングさわらびの大規模修繕を行った。内容として、空調、照明、通信設備の更新を行い住環境の整備と、外壁塗装、屋根補修を行った。

第8期介護保険計画にて科学的介護の推進が示された。情報収集と入力に時間を費やしケアプランへのフィードバックまで活用できなかった。

全国的に保育園を始め児童福祉施設において、不幸な事故、不適切な事案が相次いで報告され、都度職場内での周知を行い注意喚起を促した。

法人内の相互の連携を図る為、各事業所より出席し、事業所毎の運営状況等を報告する運営会議を開催し、情報共有に努めた。

また、令和4年度の大きな柱として取り上げた人事交流（異動）を、施設部介護課を中心に行った。施設を超えての介護課会等を開催し、双方より情報交換、課題分析を行い、一

定の効果があった。今後は更に、異動の幅を拡大し、諸規定等の改正を行い活性化を推進する。

新卒者採用に対し、県内の大学、短大、専門学校に新規採用に向けての介護、保育実習を積極的に受け入れ、新卒者の採用を行った。また、既存の非正規職員に対しては、登用制度を設けた。

放泉会・さわらび苑、発祥の地池田にて、居宅介護支援事業所の事業を再開し、定期的に地域に開放しサロン活動を行った。コロナ禍によるサロン活動を休止せざるを得ない期間があったが、ご利用の方々からは、早期再開を熱望する声を頂き、好評を得ている。

さわらびシンフォニックバンドの活動は、コロナ禍により活発な活動を行うことが出来なかった。

#### 事業所別稼働率

事業所名	令和4年度実績	令和4年度目標	令和3年度実績
サンシルバー（契約・短期入所）	98.3%	99.0%	99.4%
グループホーム	98.6%	99.0%	99.5%
居宅さわらび	107.5名/月	103名/月	110.8名/月
ゆうイング（契約）	99.7%	98.0%	101.1%
ゆうイング（短期）	65.0%	77.0%	72.3%
デイサービスゆうイング	61.8%	88.0%	78.1%
サンチャイルド長久さわらび園	127名/月	135名/月	108.3%
ゆうゆう学童クラブ	通常期 55名	通常期 57名	96.5%

## 2. 理事会開催状況

### (1) 第233回役員会

日時 令和4年5月31日（火）

場所 ゆうイングさわらび

報告 理事長職務実行状況報告

ゆうイングさわらび大規模修繕工事の進捗状況

議題 第1号議案 令和3年度事業報告の承認について

第2号議案 令和3年度一般会計決算の承認について（監査報告）

第3号議案 社会福祉法人放泉会経理規程の一部改正について

第4号議案 社会福祉法人放泉会監事監査実施規程の一部改正について

第5号議案 定時評議員会の開催について

第6号議案 居宅介護支援センターさわらび運営規程の一部改正について

その他

(2) 第234回役員会

日時 令和4年9月13日(火)

場所 ゆうイングさわらび

報告 理事長職務実行状況報告

ゆうイングさわらび大規模修繕工事について

新型コロナウイルス感染について

実地指導について

議題 第1号議案 社会福祉法人放泉会職員給与規程の一部改正について

第2号議案 令和4年度一般会計資金収支補正予算の承認について

第3号議案 社会福祉法人放泉会理事候補者の選任について

第4号議案 定時評議員会の開催について

その他

(3) 第235回役員会

日時 令和4年12月20日(火)

場所 ゆうイングさわらび

報告 理事長職務実行状況報告

指導監査(法人本部)の報告

監事監査(定期監査)の報告

新型コロナウイルス感染について

議題 第1号議案 社会福祉法人放泉会評議員会運営規程の一部改正について

第2号議案 社会福祉法人放泉会サンチャイルド長久さわらび園運営規程の一部改正について

その他

(4) 第236回役員会

日時 令和5年3月28日(火)

場所 ゆうイングさわらび

報告 理事長職務実行状況報告

令和4年度事業活動収支差額分析

新型コロナウイルス感染について

議題 第1号議案 令和3年度一般会計資金収支補正予算の承認について

第2号議案 社会福祉法人放泉会職員就業規則及び有期契約職員就業規則の一部改正について

第1号議案 令和4年度一般会計資金収支補正予算の承認について

第2号議案 令和5年度事業計画の承認について

第3号議案 令和5年度一般会計資金収支予算の承認について

第4号議案 社会福祉法人放泉会管理規則の一部改正について

第5号議案 デイサービスセンターゆうイング所長の選任について

第6号議案 通所介護事業運営規程及び介護予防通所介護相当サービス運営規程の一部改正について

第7号議案 社会福祉法人放泉会経理規程の一部改正について

- 第8号議案 社会福祉法人放泉会消防計画規程の一部改正について
- 第9号議案 育児・介護休業等に関する規則の一部改正について
- その他

### 3. 評議員開催状況

#### (1) 第81回評議員会

日時 令和4年6月17日(火)

場所 ゆうイングさわらび

報告 なし

議題 第1号議案 令和3年度事業報告の承認について

第2号議案 令和3年度一般会計決算の承認について(監査報告)

#### (2) 第82回評議員会

日時 令和4年10月28日(金)

場所 ゆうイングさわらび

報告 なし

議題 第1号議案 社会福祉法人放泉会理事の選任について

### 4. 監査等の状況

#### (1) 放泉会監事監査

①令和4年5月24日(火)、5月25日(水)9:00~16:00

定款第20条及び監事監査実施規程に基づく監査

前田正雄、田中昭一両監事

立会人 瓜坂理事長、中間内部経理監査担当理事、各施設長、各部課長、各担当者

②令和4年10月27日(木)、10月28日(金)9:00~15:00

定款第20条及び監事監査実施規程に基づく監査

11月10日(水)9:00~16:00 さわらび拠点

11月12日(金)9:00~16:00 ゆうイング拠点及びサンチャイルド拠点

前田正雄、田中昭一両監事

立会人 瓜坂理事長、中間内部経理監査担当理事、各施設長、各部課長、各担当者

#### (2) 内部経理監査

内部経理監査規程第5条1項1号に基づく定期監査

令和4年10月27日(木)、10月28日(金)

10月27日(木)9:00~16:00 さわらび拠点及びゆうイング拠点

10月28日(金)9:00~16:00 サンチャイルド拠点

中間内部経理監査担当理事、小谷泰之、竹下豊子

### 5. 役員等の研修状況

#### (1) 令和5年2月3日(金)

社会福祉施設連絡協議会(人材確保) 松江市 瓜坂理事長

#### (2) 令和5年3月15日(水)

(3) 令和5年3月23日(木)

コロナ感染対応等連絡会 大田市 向田理事

## 6. 苦情相談

事業所名	内 容	対 応
サンシルバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者が外出先から帰苑した時、車から車いすへ移乗する際に、職員が本人の首根っこを掴み介助していたため、驚きショックを受けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誤解を与える介助体勢ではあり、不信感を持たれたことに謝罪する。今後の対応方法について職員への指導を行ったことを説明し、理解を得る。</li> </ul>
グループホーム	なし	なし
ゆうイング	<ul style="list-style-type: none"> <li>おむつ交換が乱暴、入浴時の機械操作が出来ていない。</li> <li>パット交換及びポータブルトイレの処理について、希望する対応を取ってもらえない。</li> <li>ショート利用に伴う担当者会議で、転倒・転落のリスクについて事前に了解を得るような説明であったが、納得できない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該職員に注意指導し、謝罪する。</li> <li>希望される対応について職員同士で情報共有することを説明し謝罪する。</li> <li>謝罪、説明の主旨及び夜間における対応策を文書にて回答し、理解を得る。</li> </ul>
DS ゆうイング	<ul style="list-style-type: none"> <li>デイサービスの利用についての対応で、職員の言動や表情・態度が利用者家族の諸事情を無視した不快なものであり、精神的不安を感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人として再発防止の協議を行い、自宅に伺い直接の謝罪と共に、大田市の調整により再発防止の取り組みに理解を得る。</li> </ul>
居宅さわらび	なし	なし
サンチャイルド 長久さわらび園	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員へ送信すべき新型コロナウイルス感染情報(園児兄弟3名)を誤って保護者にも送信し、個人情報漏洩となった。(Jモバイル)その後苦情の電話や、職場での噂話など嫌な思いをした。子どもがいじめにあったら保育園としてどうするつもりか。当分保育園には行きたくない。</li> <li>保育園は子どもにマスク着用を強要している。 (島根県へも苦情申し入れ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当日訂正とお詫びのメール送信し、該当メールは削除する。当日、翌日と後日当該保護者宅へ伺い、直接謝罪し、個人情報保護、園児の人権的配慮等責任を持って保育に当たることを伝える。</li> <li>マスク着用の強要はしていないことの説明をするも納得得られず、マスク着用のない保育園へ転園される。</li> </ul>
ゆうゆう学童クラブ	なし	なし

## 〈サンシルバーさわらび(空床利用型短期入所生活介護事業所)〉

### 〈サンシルバーさわらび〉

1. 新型コロナウイルス感染症が全国的に広がる中、施設に持ち込まない事の意識をもち続けた1年間であった。
2. 家族との繋がりには直接的に面会が困難な場合には窓越し面会や、タブレット端末を利用したリモート面会を実施した。
3. 感染状況をみながら外出支援を実施する事ができ、ご本人の意欲向上につなげる事ができた。
4. 地域貢献活動はコロナ関係で中止となったものもあったが、浮布の池周辺の草刈等積極的に参加をした。

### 〈相談員部門〉

1. ユニット型特養の視点より入居者個々の個別ケアを意識し、フロア毎により入居者に合わせた生活を目指した。フロア毎に希望される食事や入浴時間に沿って勤務時間体制を検討した。
2. コロナ禍で直接の面会が困難であり、希望される家族や遠方の家族とのリモート面会をタブレット端末により実施した。メールアドレスの確認を進め、行事の際の写真を送ったりと情報発信に努めた。
3. 入院等で空床が出来た場合には短期入所の利用により、稼働率の維持に努めた。結果、特養の稼働率は、96.8%、空床利用短期入所サービスを含めると98.2%であった。(延べ空床日 943 日、延べ空床短期入所サービス 424 日)  
医療ニーズの高い入居者の長期入院や再三の入院、コロナウイルスクラスター発生により昨年に比べて稼働率が低下した。
4. 短期入所サービスの調整には各ユニットリーダーを含めて行った。空床型短期入所サービスの性質上、空床となった際の利用を希望される方をある程度の人数確保していく必要がある。

### 〈介護支援専門員部門〉

1. 24時間シート作成は、1階フロアを中心に作成中。  
入居者の声を基に外出支援を実施。上半期は4月にさくらドライブ、5月につつじドライブを実施。入居者の希望に合わせて(写真撮影、バーベキュー等)計画を立てて、実施できた。下半期はコロナ感染症の拡大等、外出支援の実施はできなかった。ユニット型特養として、今後も買い物や自宅への外出支援等、もっと気軽に地域へ出掛けられる、地域と繋がれるような体制作りは大事だと考える。
2. 契約入所時、看取りに対する本人や家族の意向を聴取できた。今年度は看取り同意の入居者7名。看取りの診断はなかったが、100歳と高齢で徐々に食思が悪く、全身状態の低下がある入居者に対して、5/23自宅への外出支援を行い、6/29に死去。最期に本人の希望に応える事ができ、外出支援から意欲、食欲が向上した事例だった。感染症対応時期でも看取り同意を得てからは、双方に心残りないように直接、お部屋での面会を実施。各職種、各フロア職員が生活感、価値観を大切に日頃から看取りを意識した対応ができるように情報共有できた。

3. 上半期（4～9月末）65件、下半期（10月～3月末）46件、合計111件の担当者会議を実施。基本的には入居者本人の参加もできた。家族参加15件、家族のオンライン参加5件。その他、電話やメールを用いて、家族の意向確認を行い、本人の状態を伝える等、情報共有を行い、共通の目標に対しての支援を意識した。感染症対応があり、2/20以降の担当者会議予定者はすべて3月に延期した。今後も面会規制や緩和等、法人の指針、レベル別対応に基づき、施設内における担当者会議を開催する。
4. 短期入所は定期的・同一利用者含めて、上半期（4～9月末）は12名、下半期（10月～3月末）も12名利用。利用時の様子については、家族や居宅ケアマネージャー、他サービス事業所と連携し、状態把握に努めて、自宅での生活が継続できるように支援できた。今年度は12/12にLIFEの研修会に参加。来年度はフィードバックについて、全国平均や自施設と比較しながら、LIFEを活かしたサービス計画書の立案を行う。

#### <サンナース部門>

1. 出勤時、夜間の状態を確認し、10時のナースミーティング、16時50分の全体ミーティングにて情報を共有し、疾病の早期発見、早期治療に繋げた。  
入院者数は33人で、1カ月以上の入院は7人だった。
2. 看取りの状態変化については、面会時又は電話にて伝えた。また、家族の希望を聞き、多職種協働で充実した看取りケアに取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の関係で面会制限があっても、看取りの方については感染予防対策を行ったうえで面会を許可した。県外からの面会は嘱託医・医院にて検査を受け、陰性確認のうえ面会可能とし、入居者・家族が安心して最期を迎えられるよう看取りケアを行った。死亡は24人で看取りは6人だった。
3. 感染症対策
  - ① 新型コロナウイルス
    - ・新型コロナウイルスワクチン接種  
入居者は家族の同意を得たうえで全員、職員は任意接種とし、4回目を8月、5回目を12月に実施した。
    - ・行政、産業医、嘱託医の指導を受け、感染予防に努めたが、2月にクラスター感染となる。2月15日には島根県よりDMATの派遣あり。その間、全職員、毎日自宅にて抗原検査を行う。  
終息後、嘱託医とも相談し、3月中旬より面会を再開する。
  - ② インフルエンザ  
ワクチン接種を11月に入居者、職員に実施した。1月末職員1人が家族からの感染により発生があったが入居者、他職員の感染はなかった。
  - ③ 感染性胃腸炎  
2月に1階、2階、4階で職員、入居者、複数人の発生があったが感染対応により、それ以上の拡大はなかった。
4. 看護職員の連携強化、情報共有の為、毎朝ナースミーティングを行った。

ナース会議については、毎月はできなかったが、協議内容によっては介護課長、主任出席のうえ行った。看護体制については各階担当としていたが、8月より回診日と配薬日以外は主に3人体制となった。

## 5. その他

### ・入居者結核検診

レントゲン車による検診を7月に予定していたが、新型コロナウイルスの県内拡大と市内での発生により延期とし、8月5日に実施した。

### ・職員健康診断、1回目を5月に予定していたが、新型コロナウイルスが県内、市内と職員の発生により7月に実施。2回目（夜勤者）は2月、3月に実施した。

## <機能訓練部門>

◎日常生活動作に沿った訓練内容を計画・実施し、3ヵ月毎に評価を行った。

◎多職種連携を重視し、介護・看護・栄養からも情報収集し計画作成・実施に繋げた。

1. 特技・趣味・目標に沿った訓練計画についてはフロアと連携して軽作業の提供や、入居者の語る夢に繋がる訓練内容の提供、外出時を想定した踏み台昇降等を実施した。
2. ベッド上でも快適に過ごせるポジショニングについて、職員を相手にした実践的なポジショニング勉強会を行った。今年度予算でクッションとエアーマットを購入し、身体機能に合わせて活用することができた。また、現場からクッションやマットの要望や質問が上がるなど、職員全体のポジショニングに対する意識が徐々に高まってきている。その反面、不適切なポジショニングが行われている事も見られるため、来年度も引き続き勉強会の実施や意見交換を行っていく。
3. 福祉用具について、身体機能に合った福祉用具を選択し、変更する場合はフロア職員と使用方法の勉強会を実施。介護技術の統一・向上に力を入れた。また、個々の身体機能だけでなく性格や癖にも着目した介助方法を多職種で検討する事ができた。その反面、統一した福祉用具の使用や介助方法を実施せず、事故につながったケースもあった。正しい介助方法が入居者と職員の安全につながるという事を全職員が意識し続けることが重要である。
4. LIFE フィードバックについて研修会へ参加した。低栄養リスク中高の占める割合が全国より高い傾向にある為、褥瘡予防への対策が重要と考えている。また、むせ込むことが多いという点も読み取ることができる。誤嚥性肺炎の予防のためにも座位・臥位のポジショニングに力を入れていく。

## <サンヘルパー部門>

### 1. ユニットケアの追求

- ・実習担当フロア（1F）は24時間シートと日課計画表の見直し・作成、担当フロア以外は日課計画表を担当者会議にあわせて年1回、体調変化による随時と見直し・変更を行いユニット施設での個々の入居者に合わせた在宅生活の継続に努めた。
- ・介護員の質の向上として、技術・知識、人間性・社会性などに関する勉強会を4月より各フロアが担当し月数回実施。7月よりコロナ感染症対応にて勉強会中止となる。県内・市内のコロナ感染者が少ない時期には外部の研修会に参加した。



- ・身体介助中心ではなく、傾聴・相談などによる心のケアにも重点を置き両立している。
- ・コロナ感染症対応にて、家族の面会ができない時期には電話連絡、メール配信を行い近況報告を行い家族と施設との関係性の構築を行った。3月半ばより制限ありでの面会を開始している。

## 2. 介護機器の活用

主にベッド・ストレッチャーでの上下・横の移動、起立・移乗動作などに福祉用具を活用し入居者の方への安全と身体の負担軽減（身体を持たない介護など）、職員には腰痛などの予防ができた。また、福祉用具を適所で使用することで、一人介助が安全にできマンパワーの代替えとなっている。

## 3. サービスの質の均一化

- ・月に1回フロア会とリーダー会を開催。各ユニットでの質の格差がでないように情報の共有を行い均一化した。主に健康面の飲食に関わる業務と法令順守重点を置き業務改善を行った。
- ・トリニティカレッジ専門学校1年生2名の実習について、計画的にスケジュールを組み終了。初任者研修の講師派遣を行い、法人内就職に繋がった。

## 4. その他

コロナクラスターを経験して、施設内に入れぬ予防が最重要ではあるが、入った時の感染症対応が不十分であった。ゾーニングなどの知識やガウンテクニックなどのスタンダードプリコーション技術が必要である。

### <サンキッチン部門>

#### 1. 栄養ケアマネジメントについて

栄養ケアマネジメント強化加算算定にあたり、必要な情報は各部門の協力を得ながら収集することができた。また、嘱託医、多職種と協働し、入居者本人や家族の意向を尊重した栄養ケア計画書の作成、栄養マネジメント業務を行い、健康や経口摂取が維持できるよう努めた。食事観察も行い、必要に応じてその場で多職種と相談し、食事形態や食事内容、食事量、食事用具の変更を行うことができた。栄養ケアマネジメントにおいて対象者（毎月の月末時点での在籍者）の平均は79.3人だった。低栄養状態別での各リスクの平均は、低リスク者が14.5名（18.3%）、中リスク者が53.5名（67.4%）、高リスク者が11.3名（14.3%）であった。看取り期や入退院や持病の悪化による状態の変化、褥瘡の発生により、一時的に高リスク者が増加した月もあった。低リスク者や中リスク者の中でも体重や血清アルブミン値を維持し、褥瘡の発生がなく、体調等も維持できている入居者もあった。令和4年12月12日に行われたLIFEの研修会に参加し、フィードバックされた情報も活用し、栄養ケア計画書の作成、栄養ケアマネジメントを行えるようにしていきたい。

#### 2. 療養食加算について

嘱託医が発行する食事箋に基づき、必要に応じて、心臓病食、糖尿病性腎臓病食の療養食の提供を行った。

### 3. 食事提供について

食事提供について、新規入居者には入所時に本人や家族への聴き取りを行い、また入居後も適宜、嗜好について聴き取りを行い、必要に応じて嘱託医に相談し、パン食や移動販売車の利用、代替食を実施し、出来る範囲で個人の嗜好に合わせた食事提供に努めた。食事提供体制について、入居者の食事内容の変更等にも柔軟に対応し、入居者個々の嗜好や状態に合わせた食事提供ができるよう努めた。調理担当者も膳組みや食事摂取量の記録等も行い、担当しているフロアの摂取状況や傾向も把握することが出来た。食物アレルギーの対応は確実に代替食を提供し、アレルギー症状の発症はなかった。病状により、軟菜食が必要な入居者には軟菜食の提供を行った。

### 4. 看取り期の食事について

看取り期でも経口摂取が可能な入居者には、食べたいもの、以前好きだったもの、食べやすいものを提供し、最期まで食べる楽しみが持てるよう努めた。

### 5. 衛生管理について

調理担当者へは衛生意識を高めるよう、適宜、キッチン会議等で食中毒予防や新型コロナウイルス感染症を始めとした感染症予防・対策についての勉強会、伝達を行った。今年度は令和4年5月にキッチン職員より新型コロナウイルス感染症の感染者が1名、令和5年2月に胃腸炎の感染者が3名発生した。いずれにおいてもキッチン職員から入居者や他の職員への感染拡大はなかった。

また、施設内で新型コロナウイルス感染症のクラスター発生時には、日々状況が変わる中で状況に合わせた勤務変更等対応を行った。他部門との対応の伝達が不十分なことがあり、今後の課題である。

## 〈グループホーム〉

### 1. 環境

- ・食事作り、洗濯物、掃除、体操など通し一日の流れを作り落ち着いて過ごしてもらった。行事や外出を行い季節感を味わってもらえた。

### 2. 個別ケア

- ・その人に合ったケアを行い認知症の緩和を図った。

### 3. 健康

- ・排泄、水分、栄養、睡眠を重視し個々の健康管理に努めた。
- ・コロナウィルス感染予防に努め、利用者・職員に感染者なし。
- ・マニュアルに添って感染予防・食中毒予防に努めた。

### 4. 食事

- ・入居者の楽しみの一つである「食」を旬の物・地元の食材を利用し提供できた。

### 5. 家族との連携

- ・家族にメール・お便り・電話等利用し連携を密に取れた。

### 6. 地域交流

- ・池田消防団を招いて消火訓練を行った。池田文化祭に作品を展示する、刺しゅう付のマスクを来場者の方に持ち帰りしてもらい好評であった。
- 7. 質の向上
  - ・市内のグループホーム部会に参加し他施設との交流を図った。LIFE の研修会に参加し勉強した。
- 8. 防災
  - ・通報訓練を行った。(年間 2 回)
- 9. その他
  - ・コロナ禍において制限された生活が続く中、さわらび苑跡地・ふれあいの湯での温泉入浴を行いリフレッシュを図った。

## 〈特別養護老人ホームゆうイングさわらび(併設型短期入所生活介護事業所)〉

### ＜ゆうイングさわらび＞

1. 新型コロナウイルス感染予防への意識を持ち続け「施設に持ち込ませない」ことを徹底した 1 年であった。
2. 法人内での人事交流は停滞してしまっているが、勉強会等他施設との連携を限定的ではある実施できた。
3. 各種研修会も、オンライン研修が主であったが、可能な限り資格取得に向けて参加することができた。
4. 地域連携はコロナ関係でほとんどの行事等は中止となったが、実習等一部継続して実施することができた。

### ＜相談員部門＞

1. 例年になく、入退所の多い一年であった。入所調整においても、コロナウイルスの影響は大きく、入所予定の方が入院中の病院、施設等においてコロナの発生、又はご本人がコロナを発症した、コロナ感染後の予後が悪い等で入所の延期、中止が相次いだ。その為、満床状態を維持できず、稼働率の低下となった。
2. 短期入所において、人員不足を理由として、思うような対応が出来ず、稼働率の低下に繋がった。
3. 3 月半ばより、コロナ感染者の減少により、3 年に亘り中止していた直接面会が条件付きながら再開となり、ご家族の安心感に繋がっている。

### ＜介護支援専門員部門＞

1. 感染症対策のために担当者会議に家族参加ができなかったが、家族の意向を事前に電話で確認しプランに反映した。
2. 看取りの方に関しては家族の面会の許可が下りており、家族に日々の状態報告や質問、不安な点があればお答えし密なやり取りが行えた。
3. 担当者会議は可能な限り、担当ヘルパーや各専門職が揃っている日に行うようにして、内容の濃い担当者会議を行うことはできた。終了後には担当者会議の要点を発表して情報共有した。

4. 定期的なモニタリングを行い、ケアプランの実施状況や効果を把握できた。サービス内容に関しては担当ヘルパーと相談し、適宜内容検討をして、次のプランに反映することができた。
5. 短期入所利用者の送迎時や担当者会議時に家族、他事業所、居宅のケアマネージャーと連携し、施設以外での様子を把握し施設内で情報共有した。変化等あれば、家族、居宅のケアマネージャーに連絡を行ない、間接的に主治医との連携に繋げ、在宅生活継続への支援を行った。

#### <機能訓練部門>

1. 利用者個々の身体機能の再評価を行い、より個人にあった訓練を行うようにした。訓練内容の幅も広がり、利用者からも好評の声が聞けた。又、評価・訓練法について大田圏域のリハビリ支援センターより理学療法士を招き、勉強会を行った。
2. ポジショニングは主に担当者会議や他職種から依頼されたものを検討し、写真の掲示や口頭での説明を行った。福祉用具のクッションは今年度で8つ購入、4つの寄贈があった。
3. 利用者の話を傾聴し、信頼関係を築き、訓練意欲につなげていくように努めた。コロナ禍により、集団体操が難しいこともあったが、利用者の楽しめる内容も取り込み実施した。

#### <ゆうナース部門>

1. 日常生活の中で入居者の変化を的確に捉え、疾病の早期発見・早期対応にあたり、健康管理に努める。今年度の入院延べ人数は17名（前年度からの入院、現在入院中を含む）。入院期間は早い方で4日、長い方は2ヶ月以上だった。退院許可が出たら、嘱託医に報告、相談のうえ、できるだけ速やかに受け入れを行っている。日々の観察、介護との情報共有にて異常の早期発見をし、必要に応じて嘱託医からの指示を仰ぎ、早めの対応を心がけた。
2. 多職種協働の看取りケアに取り組む。  
死亡退苑20名、その内苑での死亡は17名。看取り加算対応者9名（年度をまたがれた方2名を含む）。家族に早目の状態説明を心がけ、面会制限を考慮しながら、なるべく家族の時間がもてるように声掛けをし面会を促した。県外からの面会は、嘱託医と相談し対応した。夜間のエンゼルケアは、夜勤職員とともに実施した。急変時には介護職員とともに救命処置を行った。AED使用2名あり。複数の看取りの方がいる状態も多く、夜間コール当番の精神的負担は大きかった。
3. 研修参加や自己学習で医療知識を深める。また向上心を持ち資格取得に取り組む。コロナ禍でもあり、外部研修が減っていた。また8月に正規職員1名の退職により、日々の業務の見直しをしているが十分な休憩時間の確保も難しい状態で、体制的にも研修に参加することは難しい。資格取得はできなかったが、回診時の先生からの指導や自己学習により、医療知識は向上していると感じる。
4. 介護職員が安心したケアが実践できるよう、情報共有し医療に関する助言を行う。勉強ノートを作成して介護課と医療知識の共有、周知を図ったが、症例が少なかったため、次年度はもう少しノートの活用をしていきたい。AEDの使用など、急変

時の対応は近日中にふり返りを行い、急変にあたっていない職員にも必要物品や対応の仕方など、考えてもらうきっかけを作った。

5. 感染症対策の継続した意識啓発と実施を行う。また感染症発生時には嘱託医の指示の下、早急な終息を目指す。利用者、職員、職員家族のコロナ感染が複数回あり、都度保健所の指示に従って濃厚接触者の特定、PCR検査をした。その他、自主的に共有スペースの中止、職員のフェイスガード使用、居室消毒や使い捨て食器の対応等を行い、他部門と協力し、施設クラスターの発生は回避できた。限られた人数での対応の為、職員の心身的負担が大きく、体調不良を訴える職員も多い。

#### <ゆうヘルパー部門>

1. 入居者一人一人と真摯に向き合う

体調面や要望のある方の希望に添う事で利用者一人一人と向き合い食事、水分摂取を重点的に取り組めるよう勤務の流れを変更。入居者、家族が希望される生活に添うことが出来るよう介護計画について取り組み始めた。職員の体調不良、コロナウイルス感染症での欠勤、濃厚接触者認定による勤務変更が相次いだ際には食事と水分補給を優先に取り組み、夕食時間も変更した。入浴についても代替えを行った。

2. 看取りケア

9名の方の看取りあり。コロナ過だが、嘱託医の許可を経て直接面会をして頂いた。また、その方が好きだった音楽を流し、その方や家族が安心した看取りになるよう支援を行った。スキンケアや安楽の体位、落ち着ける環境を整えた。

3. 知識技術の向上

- ・ユニットリーダー研修、BCP オンライン研修及び甲種防火管理者講習等外部研修も可能な限り参加した。
- ・スライディングボード、フレックスボード、フルフラット型の車椅子購入、PHSの新規更新をする事で新しい介護技術の形成につながった。
- ・KYT（危険予測トレーニング）勉強会など各委員会での勉強会を実施したが、コロナウイルス感染予防の為、少人数で開催し、残りの職員については書類回覧で開催した。

4. 感染症対策

ショート利用者1名より入院した際の簡易検査でコロナウイルス陽性。他利用者、職員もPCR検査行うも陰性。どこから持ち込まれたか不明。職員の感染は9名いずれも苑への持ち込み無し。クラスターなし。面会は窓越しにて携帯電話を利用し行って頂く。

#### <ゆうキッチン部門>

##### ○調理

1. 利用者が楽しんで頂けるようホールの環境を整えて、四季を感じられるお弁当を提供することが出来た。『いつも楽しみにしている』『お弁当を食べながら楽しめた』などの利用者の声が聞けた。
2. 介護、看護と連携をとり、利用者の食欲不振、嚥下状態、療養食、また看取りの

方にも目を向けその都度、個別対応の食事提供をすることが出来た。

3. コロナウィルス感染については、職員が感染した為、食事提供の一連の流れの感染対応マニュアルの作成、感染対策の為の食器類の確保が出来た。

事故件数 2 件 ・アレルギー対応の利用者にアレルギー食品を提供した。

・キッチン内のはがれた床で滑って転倒し打撲した（労災）

#### ○栄養

1. 多職種と連携して利用者や家族の希望や思いに添った内容となるような計画書の作成と栄養管理に努めた。
2. 栄養ケアマネジメントにおいて、昨年と比べ、体重の減少で高リスク者が増え、全体の 4 割近くの利用者で体重の減少が見られた。低栄養状態のリスクにおいては、年間平均で低リスク者 11% 中リスク者 61% 高リスク者 28% であった。昨年度と比較すると体重減少やアルブミン値と同様に低リスク者が減り中・高リスク者の割合が増加した。今年度入院者が多く、退院後に体重の減少率が大きかった事や、血清アルブミン値の低下が著しく、長くリスクに上がったことが原因の一つと考えられる、
3. 療養食加算は、今年度新しく家族の同意を得て加算を算定した利用者が多かった。その反面、身体状況の悪化や退所などで算定を中止する場合もあった。

### 〈デイサービスセンターゆうイング〉

1. 利用者の方々は当施設の立地である長久町を中心に広範囲にわたっているが、新規利用者の拡大につながらず、稼働率が下降している。居宅事業所等との情報交換を積極的に行うことが必要である。
2. 送迎については、対象地域も増えたが、個別の時間的ニーズにも対応した送迎をすることができた。ご利用者及びご家族との送迎時の対応は、情報をその都度流すことで、情報共有に努めた。
3. 新型コロナウイルス感染の影響として、当該職員の子どもの関係での休みや、利用者の家族の関係での休みはあったが、施設への持ち込みはなかった
4. 今年度も、ICFに基づき、自宅の状態も含め利用される時に、利用時のみの援助ではなく、「自宅だったら」を常に念頭に置き、援助にあたったことにより、自立した生活を営む事が出来る様支援した。

### 〈居宅介護支援センターさわらび〉

1. 新規利用者 54 名/年（4.5 人/月）
2. 地域貢献 ふれあいサロン 21 回（114 名）4～6 月はコロナ感染予防のため休止  
認知症サポーター研修出席
3. 利用者、家族には迅速な対応をとる事が出来た。また顧客満足度アンケート実施。その結果多くの利用者等から我々ケアマネの対応に、ある程度の評価をもらっている事が分かった。

4. 医療との連携については、往診・通院に立ち会う事が増えた。また照会票を活用することも増え、積極的に医療機関と連絡を取り、顔の見える関係づくりが増えた。
5. 地域との関係づくりについては、民生委員との連携は、独居高齢者又は、必要に応じて概ね連絡を取り合うことができた。  
まちづくりセンターとの連携は、通い場や状況に応じて連絡が取れているがケアマネ間でも少々温度差がある。その他利用者を取り巻く地域との顔の見える関係づくりについては、不十分なところがあり今後、関係づくりの取り組み方を工夫していかなければならないと感じた。
6. 事業所の移転（長久→池田）に伴い、地域の方から介護相談としての来訪が2件あったものの、古民家を事務所にしている為か、地元の方に何をしている事務所なのかという認識がまだ薄いようである。本来のケアマネ業務を続け、地域貢献と公平性を維持しながら広報の方法が求められる。法人にも相談をする事とする。
7. 研修などについては、コロナ禍にもかかわらず、様々な研修に出席することができた。とりわけオンライン研修が多く開催され、効率性は良いと感じた。しかしその一方で他の出席者の意見などを聞く術が難しく、対面式の研修の良さを改めて実感した。

## 〈サンチャイルド長久さわらび園〉

### 1. 保育園の運営について

大田市では少子化が進み、入所については、4月1日119名（内0才児は5名）でスタートしたが、広域入所や、0才児中心の中途入所を受け入れ、年度末には0才児18名を含む133名となった。委託費については、「処遇改善加算Ⅲ」の適用が10月から始まり、収入増につながった。

その間、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、市内の保育施設では相次ぎクラスターの発生で休園となり保育活動の縮小や家庭への大きな負担となった。

（R4年度園内新型コロナウイルス感染者総数：園児72名、職員19名、クラスター発生3回（9/14, 11/24, 12/10）、休園・一部休園24回）

また急激な物価高騰に加え、10年経過した施設設備や園庭遊具の老朽化も大きな痛手となった。

一方、全国的に通園バス内の置き去り事件や保育園での虐待、暴行事件など不適切保育が取り上げられ、保育現場で決してあってはならないことと深刻に受け止めた一年であった。

園内で新型コロナの感染が広がる中、感染予防対策を徹底し、園児の安心安全な生活、保育の創意工夫、質の向上を図りながら、保護者が安心して預けられる保育園、就労支援を目指し事業を進めた。

また、保育指針に基づき、保育目標に「音を奏でるサンチャイルド・元気いっぱい・笑顔いっぱい・夢いっぱい」をテーマ掲げ、保育理念、保育方針の計画を作成し“特色ある園”を目指し新たな事業に取り組むなど積極的に進めた。

職員研修は、オンラインによる研修機会を提供し、保育に関する最新の知見や動向を

学びスキルアップを図った。また職員における自己評価を実施し、日々の保育内容を振り返り点検するための「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を活用し資質向上に努めた。

処遇改善については、国の保育士等「処遇改善事業補助金」の実施により、大幅な給与の増額支給となり、職員の意欲向上に繋がった。

また「エルダー制度」を導入し、新人職員に対し、先輩友人的な職員を配置し、不安や心配事の相談や精神的なサポートにより職場になじめるよう配慮を行った。

## 2. 特別保育事業の実施について

### (1) 病後児保育事業

年間延べ利用人数 24人 (R3 22人)

※受け入れの際は、必ず医師の診断のもと、抗原検査またはPCR検査で陰性であれば受け入れることとした。

### (2) 延長保育

・前延長保育事業 年間延べ利用人数 773人 (R3 1,068人)

・後延長保育事業 年間延べ利用人数 764人 (R3 602人)

※後延長の受入れが増えた。

### (3) 一時預かり保育事業 年間延べ利用人数 125人 (R3 175人)

※里帰り出産や定期的な利用があったが、コロナ過であり利用減となった。

### (4) 障がい児保育事業

11月より3才児クラスにて2名、個別計画に沿って保育を行った。

### (5) 地域支援保育事業

- ・地域の高齢者との田植え・稲刈り体験交流と畑作りや芋ほり体験

田植え・稲刈りの体験活動を通し地元の高齢者さんとの交流を図るとともに、お米ができるまでのお話を聞き、食の大切さについて学んだ。

畑で芋などの野菜の苗を植え、育て、芋ほりや焼き芋、スイートポテトを食べるなどの体験を通して収穫の喜びを味わうことができた。

- ・長久小学校1年生との交流会

長久小1年生と年長組と一緒にドッチボールやゲームを通して交流を楽しみ、勉強や生活の様子を聞いて小学校生活に興味を持つことができた。

- ・地域の伝統文化ふれあい事業

「土江子ども神楽」の鑑賞を通して異年齢児との交流を図るとともに、地域に伝わる伝統文化に触れることができた。

今年は、神楽面の製作を体験し、子どもの神楽への興味がさらに深まった。

## 3. その他

- ・法人の介護老人福祉施設の利用者との交流活動、保育園開放デー、祖父母ふれあいデー、地域イベント交流活動は、コロナ感染予防のため全て中止となった。

- ・「親子ふれあいスマイルデー」

未満児を中心にクラスごとに「親子ふれあい遊び」「ミニ運動会」等を企画し、親子の絆、子育て仲間の絆を深め、保護者同士の交流の場を提供した。



- ・「おはなしのとびら」  
世界や日本の名作を音楽（歌・ピアノ）と劇や紙芝居でお話の世界を子どもたちに伝え情操教育につなげた。
- ・「三色運動」  
年長児を対象に、三色に分類した食べ物の働きを学び、自分たちでバランス良く食べものを選ぶように伝え、健康な体づくりにつなげた。
- ・「お魚さんありがとう」  
地元のお魚屋さんに来ていただき、五感を通し沢山の魚に触れることで、魚に興味を持ち、大切な命をいただいていることを子どもたちに伝えた。
- ・「世界の料理」と「郷土料理」  
様々な国の料理を味わい、その国の国旗を立てたり、音楽を聴きながら食の楽しさや食文化を知るきっかけづくりにつなげた。また、日本の様々な地域の郷土料理も味わった。
- ・絵本給食では絵本を読み聞かせた後、絵本に出てくる食材や料理を給食として提供し、子どもたちの食への興味につなげた

## 〈長久ゆうゆう学童クラブ〉

### 1. 運営について

長久小学校で放課後、保護者の就労等により保育が必要とする児童に、安心してのびのびと放課後過ごせる場所を提供することに努め、児童の健全な育成を図った本年度は、スタッフ不足や諸事情の為、土曜日の活動を6月より中止した。また、開所しても利用希望が少なく、急遽中止もあり苦渋の判断だった。保護者にメール配信後、特に苦情の申し出もなく一様のご理解、ご協力を頂いた。コロナ禍の為、臨時休業もあり市からの開所要請で学童クラブでの活動時間が長く対応の職員としては大変な面もあった。反面、国や県からの補助金支援により施設内の設備面では充実が図れた。また、ICT推進事業補助金も頂き事務作業もスムーズ化が図れた。

### 2. 学童クラブの実績

	令和3年度	令和4年度
・開設日数	278日	278日
・登録児童数	60人	55人
延べ	802人	660人

### 3. その他

- ・基本的な生活習慣を身につけさせる為、学童クラブでの過ごし方をパターン化し、一日の流れを自覚できるように努めた。
- ・集団遊びに関しては、異学年が仲良くできるルールを話し合っ活動していた。
- ・個人遊びに関しては、一輪車が女子に人気が高く、順番を待つ練習するほどであった。男子はサッカーなど、勝敗を競い合う場面なども見受けられた。また、裸足の砂場遊びも多く、トンネル作りや団子作りなどに夢中であった。

- ・学習面に関しては、宿題を自主的に取り組ませるということで、スタッフ全員で分担し、児童の人数も増えたが、集中して取り組めるようにしている。時間的には各学年 30 分程度で、内容は宿題中心であった。
- ・各種活動の報告、写真（花見、散歩等）の掲示及びお便りを発行し、保護者へ理解を図った。